



ファイブウレタンU100

万能形ポリウレタン樹脂塗料の代名詞。
硬化剤を替えることで用途が広がります。

JIS K 5659 鋼構造用耐候性塗料 A種 上塗り塗料 3級
JIS K 5658 建築用耐候性上塗り塗料 3級
「低汚染ファイブウレタン」[弾性ファイブウレタン]「防錆ファイブウレタン」は JIS K 5659 対象外になります。(JIS K 5659 は製品には表示されません)

ファイブウレタン U100 (つや有り)

本製品には当社工場にて製造、もしくは調色した JIS 表示品 (JIS K 5658) と店頭調色していただくための JIS 非表示品があります。
JIS 表示が必要な場合は注文時のその旨をご指示ください。
なお JIS K 5658 表示対象品はつや有りのみとなります。

JIS A 6909 建築用仕上塗料	可とう形改修塗料 E/RE * (DAN フィラーリフレックスの場合)、複層塗料 E/RE/SI 上塗材 (ファイブウレタンU100: 耐候形2種)
	可とう形改修塗料 RE * (DAN フィラーエポの場合) 上塗材 (弾性ファイブウレタンU100: 耐候形2種)

*可とう形改修塗料 RE の場合は、適用主材が限定されます。

■特長

①高耐候性

ウレタン架橋による緻密な塗膜を形成し、高い耐候性を有します。

②低汚染性※

独自の親水化技術により、すぐれた低汚染性を有しています。
※専用の低汚染形硬化剤を使用した場合に限りです。

③防錆性※

ポリウレタン樹脂系上塗塗料の耐候性と、鉛・クロムフリーさび止めペイント (JIS K 5674) 相当の防錆性を有しています。
※専用の防錆形硬化剤を使用した場合に限りです。

④防藻・防かび性

藻・かびの発生を抑え、建物の美観と清潔な環境をまもります。

⑤すぐれた仕上がり性

かぶり (隠ぺい性) が抜群で、肉持ちの良い塗膜が得られます。

⑥ターペン可溶ですぐれた塗り替え適性

塗料用シンナー A で希釈するタイプですので、改修時に下地を気にせず安心してご使用いただけます。また、臭気がやわらかく、作業環境にもやさしい塗料です。

⑦幅広い素材適性

外壁、鉄部、FRP、硬質塩じ部、木部などの新設、塗り替えと幅広く使用できます。

⑧透湿性

水蒸気透過性にすぐれており、結露から建物をまもります。

■用途

戸建住宅・マンション・商業施設など

■適用下地

セメント素地 (コンクリート・モルタル) / 金属 (鉄面・亜鉛めっき面・ステンレス・アルミ) / 木部 / カラー鋼板

■主な適用下塗り塗料

- ニッパパーフェクトフィラー
- ニッパパーフェクトサーフ
- ニッパパーフェクトプライマー
- ハイボンファインプライマー II
- ニッパアンダーフィラー弾性エクセル
- ニッパDANフィラーエポ^{注1)}
- ニッパ1液ファイブウレタンU100木部下塗り^{注2)}

注1) 弾性ファイブウレタンU100の場合に適用可能です。

注2) 「ニッパ1液ファイブウレタンU100木部下塗り」は、エポキシ樹脂塗料であるため「ファイブウレタンU100」とは混合できません。

※上記以外にも使用できる塗料がありますので、詳細についてはお近くの営業所までお問い合わせください。

■適用主材

- ニッパタイルラックEMA-Sベース100K
- DANタイル中塗りRホワイト^{注1)}・DANタイル中塗りSホワイト^{注1)}
- ニッパタイルラック1液EPO-Sベース
- ニッパタイルラックシリカ-Sベース II

■標準塗装仕様 塗り替え

塗装工程	塗料名	塗り回数	使用量 (kg / m ² / 回)	塗り重ね乾燥時間 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)	塗装方法
下地改修工事	下地改修工事が必要な場合は、下地調査結果に基づいて、塗装工事前に実施する。						

●コンクリート・モルタル面 微弾性フィラーを用いた改修塗装仕様

下地調整	活膜を残し、膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を入念に除去する。砂じん、油分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。						
下塗り	パーフェクトフィラー	1	0.20 ~ 0.45	4時間以上	水道水	3 ~ 8	ウールローラー
			0.50 ~ 0.90			1 ~ 5	砂骨ローラー
上塗り①	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	2時間以上	塗料用シンナーA	5 ~ 10	ウールローラー・エアレススプレー
上塗り②	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	-	塗料用シンナーA	10 ~ 15	ウールローラー
						5 ~ 10	エアレススプレー

※ニッパパーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が早まるような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することを推奨します。
(作業性や仕上りの向上を更に図ることができます)

●一般鉄部改修仕様

下地調整	膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜は、周辺部分を入念に除去する。さびは電動工具や、サンドペーパー、研磨布などを用いて除去し、清掃する。						
下塗り ^{注)}	ハイボンファインプライマー II	1	0.16 ~ 0.18	4時間以上 7日以内 ^{※1)}	塗料用シンナーA	0 ~ 10	ウールローラー
上塗り①	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	2時間以上	塗料用シンナーA	0 ~ 5	エアレススプレー
						5 ~ 10	ウールローラー・エアレススプレー
上塗り②	ファイブウレタンU100	1	0.12 ~ 0.17	-	塗料用シンナーA	10 ~ 15	ウールローラー
						5 ~ 10	エアレススプレー

※1) 高温下では硬化反応が著しく速まります。高温時の施工では、上塗りを3日以内に塗り重ねてください。

注) 一般鉄部には上記のさび止め塗料以外に、ハイボン20デクロ、1液ハイボンファインデクロ、速乾PZヘルゴンエコ、パーフェクトプライマー、エスパワーンエースも使用できます。

注) さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なクレン後、下塗り塗料 (さび止め塗料) で部分補修塗りをしてから下塗りしてください。

※防錆形ファイブウレタンU100での塗り替えもできます。

注) 公共建築工事標準仕様書 DP 塗りに基づく場合は、上塗り一回目 (中塗り) として「ファイブ中塗り DP」をご使用ください。詳細については最寄りの営業所までお問合せください。

■塗料性状・荷姿

塗料名	色相	つや	容量	希釈剤	希釈率 (%)		使用量 (kg / m ² / 回)	ポットライフ (23℃)
					はけ、ウールローラー	エアレススプレー		
ニッペ ファインウレタンU100	各色	つや有り 7分つや有り 5分つや有り 3分つや有り	15kgセット (塗)13.5kg (固)1.5kg	塗料用シンナー A	5 ~ 10 (1回目) 10 ~ 15 (2回目)	5 ~ 10 (1回目) 5 ~ 10 (2回目)	0.12 ~ 0.17 (はけ、ウールローラー、 エアレススプレー)	10 時間
ニッペ 弾性ファインウレタンU100			4kgセット					10 時間
ニッペ 低汚染形ファインウレタンU100			(塗)3.6kg (固)0.4kg					8 時間
ニッペ 防錆形ファインウレタンU100								10 時間

- ・2液形のため、「塗料液：硬化剤＝9：1 (重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
- ・上記の数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
- ・ファインウレタンU100の硬化剤を専用硬化剤にそれぞれ替えるだけで、特性を付与することができます。
- ・JIS A 6909 仕様の組み合わせなど詳細については、お近くの営業所までお問い合わせください。

■塗り重ね乾燥時間

	5 ~ 10℃	23℃	30℃
塗り重ね乾燥	8 時間以上	2 時間以上	1 時間以上

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

■施工上の要点と注意事項 (詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。)

1. 「3～7分つや有り仕上げ」の場合、上塗りの1回目に「つや有り」、2回目に「3～7分つや有り」をご使用ください。
2. 蓄熱されやすい建材 (軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など) を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですらに旧塗膜が剥がれていることがあります。そのままだ塗り替えると剥がれがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の剥がれ、はく離が生じることがありますので、最新の営業所などにご相談ください。
3. 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
4. 希釈用シンナーは塗料用シンナー A をご使用ください。冬季など乾燥が遅いときは、塗料用シンナー SA もご使用いただけます。
5. FRP、塩ビに直接塗装する場合は、下地調整 (目粗し) を実施してください。厚肉硬質塩ビなど素材の種類により非常に付着し難い素材の場合がありますので、あらかじめ試験塗装を実施し付着性を確認してください。
6. 鉄部には直接塗装できません。あらかじめ、さび止め塗料を塗っておく必要があります。
7. つや調整品では、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
8. つや調整品では、塗りむらや補修でつやむらが出やすいので、面を切って通しで塗装してください。
9. 過剰希釈をすることで本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
10. つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
11. つや調整品は、使用中にも塗料液が分離しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
12. 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
13. 被塗物の構造、部位、塗装仕上げ形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が発現されない場合があります。
14. 善い汚染が発生しそうな箇所には、状況に応じてニッペクリスタコートを上塗り剤として塗装することで汚染を軽減することができます。
15. 溶剤系塗料のため、室内での塗装は必ず換気を行ってください。また、外部での塗装においても、換気口・空気取入口などに養生を行い、溶剤蒸気が室内に入らないように注意してください。居住者への配慮をお願いします。
16. 所定のシンナー以外を使用したリ、薄めすぎるとつや引けやダレ、かぶり不良などをきたす原因になりますので、必ず所定のシンナーおよび希釈率をまもってください。
17. 異なる色相を塗り重ねる場合 (例：1回目の上塗りを塗装してから、別な色相でラインや帯などを塗装する場合など) 2回目の上塗りを1回目を塗る際にラインや帯などが変色 (ブリード) する場合がありますのでご注意ください。結露の善い箇所では、JIS K 5629 (鉛酸カルシウムさび止め) の上には、塗装を避けてください。
18. 硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
19. 水、アルコール系溶剤の混入は絶対に避けてください。
20. 硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
21. 塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないよう十分にご注意ください。
22. 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合 (高湿度、結露、降雨など)、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
23. 旧塗膜が塗料用シンナーで容易に溶解するつや有り塗料の場合は、縮みや剥がれが発生するおそれがあるため、塗装は避けてください。弱溶剤1液形塗料や水性塗料での塗り替えをお奨めします。
24. 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着障害をおこすおそれがあります。
25. 内部塗り替えにおいて旧塗膜がSOP、FEなどの油性系の場合、研磨ざりを行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
26. 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
27. 改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤剥がれや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
28. 風化面・吸込みの善い下地では、ニッペ浸透性シーラー (新)、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをご使用ください。なお、使用量は濡れ感が出るまでを目安とし、素地への吸い込み箇所がある場合はその部分を増し塗りしてください。
29. シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
30. やにが著しく付着している場合は、ウエスなどでやにを水拭きして除去し被塗面を十分に乾燥させてから塗装してください。希釈を少なくし、1回目の塗装を十分乾燥 (目安 23℃、6時間) させてから2回目の塗装をすることでやに止め性が向上します。シミ、あく面止まりにくい場合がありますので、ウエスなどで水拭きを行い、被塗面を十分乾燥させてから塗装してください。
31. 素地表面のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10% 以下 (ケツト科学社製 CH-2 型で測定した場合)、または 5% 以下 (ケツト科学社製 H1500 シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合) の条件で塗装してください。
32. 表面のごみ、ほごり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目隠し、ジャンカ、コールドジョイ

33. ALC 面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材 (ニッペ1材カチオンフィラー、ニッペ1材フィラー# 200) などで処理してください。(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください)
34. 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
35. 材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
36. 新設の押出成形セメント板、GRC板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー (新)、ニッペ1液ファインパーフェクトシーラー、ニッペファイン浸透シーラーをお使いください。
37. 塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
38. カウンター、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
39. 塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりが作業性が低下することがあります。
40. 屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
41. 塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
42. 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
43. シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペプライドオフプライマーを下塗りすることで、可塑移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
44. 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、剥がれなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
45. 薄めすぎは隠い力不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
46. 上塗りに冴えたイエロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に冴えた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で隠い出来ない場合がありますため、事前に試験施工塗り板等でご確認ください。
47. 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
48. 濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、弱溶剤タイプのビュアライドUVプロテクトクリアーシリーズ (MK/DF/Si) を上塗りに塗装してください。クリアーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
49. 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
50. はけ塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量、表面質が異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分は希釈を少なくして塗装してください。
51. ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なる場合があります。
52. 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
53. 汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
54. はけなどの塗装用具の洗いは、ラッカーシンナーを使用してください。
55. クロスの上の塗装は避けてください。
56. ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
57. 可塑剤が多く含まれる塩ビクロス、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革などへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようにご注意ください。
58. 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
59. 塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
60. 開封後は一度に使い切ってください。 やむを得ず保管する場合は密栓してから冷蔵所で保存し、速やかに使い切ってください。
61. 内容物/容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
62. 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時には、産業廃棄物として処理してください。容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すや環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込み、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。

■本カタログ掲載商品の詳細な危険有害性情報や使用上の注意事項等については、安全データシート (SDS) をご参照ください。
 ■本製品は日本国内での使用に限定し、輸出される場合は、事前に相談ください。

日本ペイント株式会社

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 北海道支店 ☎ 011-370-3101 | 近畿支店 ☎ 06-6455-9608 |
| 東北支店 ☎ 022-232-6711 | 中国支店 ☎ 082-281-2180 |
| 関東支店 ☎ 03-5479-3614 | 四国支店 ☎ 0877-56-2346 |
| 北関東信越支店 ☎ 03-5479-3614 | 九州支店 ☎ 092-751-9861 |
| 中部支店 ☎ 052-461-1960 | |

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- ©Copyright 2026 NIPPON PAINT Co.,Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <https://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
 NP-E078
 UD260407T
 2026年4月現在